【リハビリテーション学科】

担当教員	模擬講義		研究キーワード
	講義テーマ	講義内容	
齋木 しゅう子	身体活動とエネルギー代謝	毎日の食事は身体を作り、身体を動かすためのATPを生み出す基になります。健康で生活するための栄養と運動のあり方を健康寿命延伸の視点を持ちライフサイクルから考えます。	ATP、食事、運動
髙村 元章	超高齢社会での理学療法士が果たすべき役割	高齢者とはどのような存在であるか改めて考えてみましょう。そして、高齢者の方々が日々生き生きと生活できるよう理学療法士が担っている役割の一端を紹介します。	高齢者、理学療法士、予防
五十嵐 守	あなたは子どもですか大人ですか	子どもという、小さな大人でない存在が確立してゆく過程を学ぶとともに、正誤の基準ではなく善悪の規準で自身の考えをまとめることを行います。	人間発達、大人と子ども、価値基準
	赤ちゃんの動きを科学する	私たちは自分の身体は自分で動かしているという感覚をもっていますが、実は意識に登らないシステムにより支援を受けています。それが如実に表れているのが新生児期から乳児期初期の赤ちゃんです。この時期の赤ちゃんの動きを知ることでどの様に身体のコントロールを得て行くのか学びましょう。	自発運動、原始反射、随意運動
田邊 素子	働く人の腰痛対策	職場における腰痛対策について、心理社会的要因を含めた要因、腰痛予防対策について学びます。	職業性腰痛、心理社会的要因、予防対策
	コミュニケーションにおける顔認知	人はコミュニケーションをとる時に相手の表情を判別します。コロナ禍ではマスクをする場面が増えましたが、マスクの着用が顔認知に与える影響を考えてみたいと思います。	顔認知、マスク、脳機能
荒木 草太	歩行のバイオメカニクス	日常で何気なく行っている歩行ですが、実は脳や身体、バランスなど多くの要素で成り立っています。歩行の基本と歩行再建のリハビリテーションについて学びます。	歩行、義肢装具、テクノロジー
黒木 薫	スポーツ現場における理学療法士の活動	理学療法士は、病院や施設内に限らず、社会のニーズを踏まえて様々な領域で活動している。その1つがスポーツ現場での活動である。スポーツ現場での活動経験を踏まえ、スポーツ現場にて何が求められているか、どのような知識・技術が必要か、実際にどのような活動をしているか、等について説明します。	スポーツ理学療法、スポーツ現場、理学療法士の地域活動
佐藤 洋介	運動と脳	アスリートのハイパフォーマンスを支える脳機能について最新の知見を学びます。	運動、スポーツ、脳機能
	痛みの慢性化	本来であれば治るはずの痛みが中々治らない経験をした方は多いと思います。痛みの慢性化がなぜ起こるのか、慢性化を防ぐ方法はあるのかについて学びます。	痛み、慢性化、脳機能
野路 慶明	生活習慣と健康を読み解く疫学	日々の運動や睡眠などの生活習慣は、将来の健康に大きく影響します。生活習慣と様々な病気との関係を疫学の視点から捉え、データをもとに健康課題を考える方法を学びます。	運動、睡眠、生活習慣病
横山 寛子	スポーツ外傷・障害の予防と理学療法士の視点	スポーツで怪我が起きる原因は様々ありますが、身体のつかい方や筋力、柔軟性などが関係していることがあります。そのような観点から理学療法士の役割や怪我の予防について考えます。	スポーツ外傷・障害、理学療法士、予防
	スポーツ競技復帰に向けた理学療法	スポーツによる怪我から競技復帰までの過程・リハビリテーションについて学びます。また、理学療法士がどのように選手を支え、再び競技に戻れるよう支援しているのかを学びます。	スポーツ、競技復帰、再損傷予防
小関 忠樹	電気刺激を用いたリハビリテーション	人の体に電気を流す治療や機械は、日常にも広く普及しています。リハビリテーションでは、電気刺激を筋力増強、痛みの緩和、運動障害（手足の動かしにくさ）の改善に適用します。実例も交えながら、電気刺激がリハビリテーションでどう活用されているのかを学びます。	電気刺激、神経活動、運動制御
蓜武 倫絵	車いすスポーツの動作解析	車いすバスケットボールや車いすラグビーなどを例に、選手がどのように車いすを漕ぎ、止まり、曲がり、競技動作を行っているのかを観察します。動きの速さや体の使い方を分析することで、競技力の向上だけでなく、けがの予防やリハビリテーションにどのように役立つのかを説明します。	パラスポーツ、競技力向上、傷害予防
佐藤 善久	リハビリテーションと作業療法の未来	現代社会は戦争や感染症、経済不況など予測困難な出来事が続くVUCA時代と言われています。こうした中で、リハビリテーションや作業療法の未来には新たな役割の拡大や働き方の変化が起こっています。これらの仕事は大きなやりがいがある一方で、将来に不安を抱く人もいます。未来のリハビリテーションや作業療法について考えてみましょう。	リハビリテーションの未来、作業療法の未来、役割と職域の拡大
	健康（ウエルビーイング）・生きがい・充実した生活	人は病気にさらされることなく健康でいたいと願いますが、心身が病気でないということと生活の満足度や生き生きとした生活とは異なる視点があります。スポーツや学習、仕事、推し活など何かを夢中になれるときには時には充実感を感じられます。新たな健康観を考えてみましょう。	ウェルビーイング、生きがい、充実した生活
	生活における情報リテラシー	現在の社会は多くの情報が氾濫し、よりよく活用できるときもあれば、心を痛めてしまう情報を受け止めてしまう時もあります。自分自身を保ち健康的にいられるための情報リテラシーを学びましょう。	情報リテラシー、ものの見方、心の健康
	力学と生活	人は運動をする際に筋肉に一定を付加を与えながら強化しています。一方で体の使い方ひとつで腰痛など体を壊してしまう場合もあります。力学の視点を持つことで体を強化したり守ることを学びましょう。	力学、体の強化と守り方
渥美 惠美	作業療法学生に必要なコミュニケーションスキルとは？	学生として求められるコミュニケーション・スキルについて説明し、簡単な演習を行い自分のコミュニケーションスキルの傾向を考えます	コミュニケーション・スキル 、自己理解
籔脇 健司	作業療法とQOL	リハビリテーションのイメージを確認し、理学療法と比較しながら作業療法の目的や役割について説明します。また、生活の質（QOL）とは何なのか、グループワークを通して理解を深めていただきます。	リハビリテーション、作業療法、生活の質（QOL）
伊藤 明海	要介護高齢者支援におけるチームアプローチ	介護度の高い高齢者の方が、その人らしい生活を続けられるように支える作業療法の実践と、介護職員との連携によるチーム支援のしくみについて学びます。	高齢者、連携、生活
稲垣 成昭	リハビリって何？ ～「作業」の話をしよう～	「リハビリって何？」という疑問を解き明かし、その本質である「自分らしい生活の回復」と、生活の全要素である「作業」の役割を説明します。演習で自身の生活を振り返り、健康維持における作業療法の重要性を学ぶ内容です。	作業（Occupation）、自分らしさ、作業療法
浮田 徳樹	福祉用具とリハビリテーション	自助箸や車椅子など、福祉用具は生活に困難を抱える方々にとってどのように役立つのかを体験型講義で学びます。	福祉用具、リハビリテーション、作業療法
	生活行為とマネーリテラシー	作業療法士は対象者の生活行為に介入します。その方がどのような人生を送りたいのかを、作業分析とお金の観点から学びます。	ライフプラン、マネー、キャリア
	車椅子の使い方と生活支援	車椅子の使い方や支援方法について、実際の車椅子を用いながら体験型で学び、在宅や市街地での生活支援について考えます。（WC３～４台必要。対応10名以下の依頼に限定）	車椅子（WC）、住環境整備、生活支援
	身近に存在するIOTやテクノロジー	昨今のテクノロジーの進歩は目覚ましく、身近なテクノロジーが生活を支えています。生活の観点からテクノロジーが障害者や生活者に与える影響について学びます。	AI、テクノロジー、生活行為
紀國谷 恵子	作業療法ができること	からだや心に障害をもつひとびとが、納得してありたい生活が実現できるよう支える医療という観点から作業療法をお話しします。	障害の分類、作業療法、コミュニケーション支援
大瀧 亮二	手は第二の脳？ 作業を支える脳のしくみ	手は物をつかむだけでなく、感じる、考える、表現するための重要な器官です。脳が手の動きをどのようにコントロールし、作業療法士がその力を生活の回復にどう活かすのかを説明します。	脳機能、手（上肢）、作業療法
梅津 雄志	精神障害と認知機能リハビリテーション	精神科領域における現状と問題、今後について言及しながら、精神障害者の認知機能とそのリハビリテーションについて学びます。	精神障害、認知機能、精神科作業療法
	作業療法士における生活行為の支援	作業療法における生活行為とは何か、生活行為の大切さについて高校生や大学生などの例示を入れながら学びます。	作業療法、生徒/学生、生活行為

王 尹容	世界の作業療法	作業療法という専門は日本だけ？「作業」の考え方について海外と日本との相違点を明らかにする。国際社会における医療・福祉や健康に関する現状と課題を理解し、作業療法を勉強して何か役に立つことを一緒に考える。	国際、作業
清田 直樹	人は“推し”のためなら動ける	「なぜライブの日は早起きできるのか？」「なぜ好きなことには時間も労力も使えるのか？」を入り口に、“意味”が行動を生み出すことを考える。、“意味が行動を変える”ことを体感的に考えましょう。	作業の意味、内的動機づけ、作業科学
	人生の“ラスボス”に勝つ方法	「また料理したい」「推し活に行きたい」「友達と遊びたい」など、“その人らしい生活”を支える視点から作業療法を紹介する。 体験として、「楽しかった時」「落ち込んだ時」「変わった時」を線で描いてもらう。「人生は意味の変化でできている」、「今困っていること」などを“ラスボス”に例え、「どんな仲間やアイテムが必要か？」を考えてみましょう。	意味の変容、ライフストーリー、作業療法、作業科学、ゲーミフィケーション
前川 弘樹	生活リズムと健康	生活リズムの乱れが体調や気分にどのような影響を与えるのかを考えます。また、テクノロジーを用いて自分の生活を客観的に見直す方法を紹介し、健康を保つためのヒントを学びます。	生活リズム、テクノロジー、予防
	発達障害と感覚	音や光、触覚などの感覚に過敏さや鈍さが日常生活にどのような影響を与えるのかを学びます。また、簡単な体験活動を通して感覚の特徴を理解し、発達障害のある児童への関わり方について考えます。	発達障害、感覚、子ども